

## 平成 30 年度 第 7 回白石町協働によるまちづくり検討委員会 議事録

- 開催日時：平成 31 年 1 月 31 日（木）午後 6 時～午後 7 時
- 開催場所：福富ゆうあい館 研修室
- 出席委員：五十嵐委員長、森副委員長、草野委員、片渕委員、川崎委員、上野委員、志田委員、内野委員、吉田委員、島ノ江委員、藤木委員、片渕委員、江口委員、前田委員、丸田委員、原崎委員、木下委員、林委員、山下委員
- 事務局：百武副町長、松尾総務課長、井崎企画財政課長、千布生涯学習課長、土井白石公民館係長、片渕福富公民館係長、森有明公民館係長、坂本白石創生推進専門監、吉村企画財政課長補佐、筒井白石創生推進係長、柴田白石創生推進係主任、藤井白石創生推進係主事

## 《 議 事 録 》

午後 6 時 開会

## 1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

## ○委員長

皆様の熱心な委員会でのご意見のおかげもございましてようやく第 7 回目でリーフレットの案を最終的にご審議いただく時間となりました。予定では本日をもって今年度の委員会は一旦終了すると伺っております。本日は広く町民に知ってもらうためのリーフレットについてご意見をいただいた上で町長にリーフレットに沿って町政を運営していただくようお願いをすることになろうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

## 3. 協議事項

## (1) 第 6 回検討委員会の振り返り

## ○委員長

前回第 6 回の振り返りでございます。事務局の方からご説明お願いいたします。

## ○事務局

資料 1 をご覧ください。議事録となっております。内容の詳細は省きますが、前回の資料 3 「白石町協働による地域づくり検討委員会でのまとめ」について、委員の皆さんから分かりやすい言葉に変えること、事例を加えること、課題だけでなく良いところを

さらに伸ばすという表現を加えること、このようなご指摘をいただいております。ご指摘に対する変更点等につきましては、後だって説明させていただきます。なお、第6回の議事録につきましてもこれまでと同様内容についてご確認いただき、変更がありましたら事務局までお知らせ下さい。

#### ○委員長

議事録に目を通していただき、何かございましたら事務局の方にご意見をお寄せください。

### (2)「協働による地域づくり」に向けての検討

#### ○委員長

本日のメインとなります「協働による地域づくり」に向けての検討に入らせていただきます。主にこのリーフレットについてご意見をいただくことになろうかと思えます。それでは事務局からご説明お願いいたします。

#### ○事務局

資料2をご覧ください。白石町「町民協働によるまちづくり」リーフレットの案です。見栄えを良くして、ご指摘いただいた分かりやすい言葉、事例の追加、良いところをさらに伸ばすという表現の追加を、紙面の都合上完璧とは言えませんが、変更して作成しています。

では、詳細な説明に入ります。まずメインのタイトルですが、総合戦略基本目標④-1に掲げております「町民協働によるまちづくり」をメインタイトルとしております。そして総合計画の基本計画第6章「参加と協働で築く町民主体のまち」をサブタイトルとしております。地域づくり協議会の目的でもある「一緒に活動する」という意味を表すほうをメインに、そしてその結果目指す形を表す言葉をサブとしております。

2ページをご覧ください。まず一般の方は「町民協働」という言葉自体聞き慣れていらっしゃると思いますので、ご指摘いただいた分かりやすい言葉ということで、最初に「町民協働」とはどういうことを指すのか説明文を追加しました。読みあげますと、「協働」とは、簡単に言うと「同じ目的のために、協力して働くこと」です。世の中の社会情勢や、町民の皆さんのライフスタイルやニーズが変化していく中、役場だけでなく、皆さんや、各地域における様々な団体等が共に考え、共に活動していただくことです。まずこれを説明するようしております。次にどうして「町民協働によるまちづくり」が必要なのかという部分は、まず全国的な背景がありまして、その下に一方白石町ではと課題をあげています。課題に対して何々だからこのようなことが必要であるという表現をしております。これも読みあげますと、若い人たちの地域活動等への関心度が低く参加も少ない、少子高齢化により地域の担い手がない、活動を手伝う人がいない、活動に参加する時間が確保できない、だから、町民の協働意識を高める必要がある。高

高齢者福祉への対応や、子どもの居場所づくり、子育て支援活動のサポートが必要である、だから行政区の単位を超えた地域（小学校区等）での活動を行えるネットワークの構築が必要である。（地元定着のため）郷土への愛着をはぐくむ必要がある、だから地域の伝統的な活動等を継続し、新しいニーズの把握や対応（イベント等）が必要である。地域によって活動の活発さに差がある、地域や各団体の活動内容がよくわからない、だから地域内での組織及び団体が連携を強化すると同時に、情報を積極的に発信する必要がある、というような表現をしております。そして事例の追加ということだと例えばこういうことだという一般的な活動事例を加えております。①から読みあげますと、高齢者や子どもの見守り活動に、多くの団体が連携することで「見守り活動」が活発になります。②地域のイベントを、関係する団体や個人が連携することで、参加者や運営スタッフが増加します。③生産組合や農地・水、その他の団体が実施する清掃活動等に一般の方が参加することで、地域の環境保全活動の意味を理解する住民や活動が広がりますと事例を示しております。そしてこの③で、一般の方が参加することで意味を理解する、住民や活動が広がると表しておりますのは、この部分が今はやっているけどさらに伸ばせるという意味であげているところです。

3 ページをご覧ください。目指す将来像として、小学校区単位等の地域で、行政区、自治公民館、消防団、PTA、老人クラブ、生産組合など各団体が「【仮称】地域づくり協議会」という新しいネットワークで連携し、地域課題の解決や地域の強みを生かした活性化につながる新たな取り組みを行い「参加と協働で築く町民主体のまち」を目指すとしております。そしてその下に地域づくり協議会のイメージを示しておりますが、これにつきましては前回説明したものを栄え良くしただけなので詳しい説明は省きますが、概ね小学校区単位で地域づくり協議会を作ってください、そこに参加する団体や住民が各部に所属して地域づくり計画に基づいて各分野で活動していくということを図で表しております。

4 ページをご覧ください。「地域づくり協議会」設立までの取り組み例ですが、これも前回説明したものを栄え良くしただけなので詳細な説明を省きますけれども、下の部分にこのリーフレットの作成者としてご尽力いただきました白石町協働による地域づくり検討委員会の名前を入れさせていただいております。説明については以上です。

#### ○委員長

今まで色々なご意見をいただきながらコンパクトに町民向けのリーフレットとしてまとめたものでございます。まず表紙は、先ほどから説明がありました通り町全体の上位計画、総合計画で使われている文言を使っているということでメインタイトルが「町民協働によるまちづくり」、サブタイトルが「参加と協働で築く町民主体のまち」というタイトルにしています。中心に象徴的な絵・写真を並べていますが、表紙はこれによるでしょうか。

次のページです。この内容で町民に理解しているような内容になっているか、大事な

ことが抜けていないか、そういう点に注意してご確認をお願いしたいと思います。本日町長にリーフレットを渡すことになっていますが、細かい文言の修正は後でできると思います。

#### ○事務局

本年度2月から地元説明会をさせていただく予定なのですが、今日ご意見いただいた分について修正をして提示したいと思います。

#### ○委員

事例の③ですが、農地・水は今年で終わると聞いたのですが。

#### ○委員長

これは法制化されていますので終わることはないと思います。農地・水環境向上対策と言っていたんですが、今は多面的機能支払いという名前に変わっています。法制化されているので事業としては続くと思います。

#### ○委員

これを回覧か何かでもらっても見ないと思うんです。写真を大きくしたり、文章を減らしたりした方が良いと思います。これだけ回ってきて最後まで読まないと思う。第一印象ですが、各戸配布してもあまり興味がないというように見えるのではないかと思います。例えば、写真がもっと大きかったら見ると思うんです。

#### ○委員長

確認ですが、今回のリーフレットは説明会で使うのですか。いわゆる町民全戸配布だとか回覧板じゃなくて何らかの集まりの時に説明用として使うという意味ですか。

#### ○事務局

前回の会議の時もお話したかと思いますがけれども、まず地区別に駐在員、区長、自治公民館長に集まっていただいて説明会をさせていただきたいと考えております。その際、例えばもう少し詳しく説明してほしい、住民にも説明をしてほしいという時にも、リーフレットを持っていこうと思っています。できれば全戸配布も考えておりましたけれども、先ほどの意見の通り、今までなかなか町民向けに「町民協働」ということで話はしてませんので果たしてどこまで分かっていたかということもありますので、一応今のところの予定としては3月の町報に検討委員会を開催してリーフレットを作成したということを掲載する予定にしております。

#### ○委員長

今の段階で大幅な修正はできませんが、もう少し文字情報を増やすだとか写真のサイズを変えるだとかの修正は可能ということです。

#### ○委員

文字よりも写真を増やした方がみんなを惹きつけるのではないかと思います。

#### ○委員長

最終的に町民全員が見れるような段階になった時にもう少しインパクトがあるよう

な表現や方法があった方が良いというご意見です。それでは次のページ3ページをご覧ください。目指す将来像のところですか。何かご意見ありますか。

#### ○委員

緩やかなネットワークとして色々な団体がありますが、これを線でつないだらどうですか。ただ団体があるのではなく、そのネットワークが網の目のようにはっていきわけだから縦横していかないとネットワークという意味が感じられませんけど。

#### ○事務局

一応、この外枠の点線が概ね小学校区、その中の緑の四角が地域づくり協議会の組織というイメージでその中に全部入っていらっしゃるという表現をしているつもりです。つながりという意味で線を引いたほうが良いという事ですが。

#### ○委員

そうしないと前にも言ったとおり、「セクト主義」みたいな団体で固まってしまうのではないかと。やはり横の連携、縦の連携、斜めの連携が必要ということであれば線を引いてまとめた方が良いのではないですか。

#### ○委員長

今回大幅な修正はできないのですが、ネットワークらしい線で結ぶ方法も最終版のときには検討したいと思います。他にございますか。

#### ○委員

ネットワークの中に「婦人会」がありますが、これはどういう領域なのですか。地域婦人会自体はそんなに大きくなく、解散しているところもあります。

#### ○委員長

女性の集まりみたいなイメージでしょうか。

#### ○事務局

今言われたように町内では婦人会がなくなっている地域もあります。しかしながらそれに代わるものとして、その区の女性部会みたいなのができているところもあります。そういったところも含める表現として婦人会・各女性部としております。

#### ○委員長

もちろんこれ以外にも団体はあるんですよ。そういう意味でその右下のほうに「など」と他にも色んな団体があることを示しております。

最後の4ページをご覧ください。ここはかなりテクニカルなところなので文字も小さくなっていますが、やむを得ないだろうと思っています。表現上の問題は何かありますか。

このリーフレットは役場のホームページにも掲載されるとのことで、右下にホームページのアドレスとQRコードを入れています。若い人はQRコードがあれば見るのではないかと。最近そういう時代なので、紙はいくら印刷しても足りないわけでは。PDFですぐダウンロードできるのはQRコードが一番良いと思います。それでは今いただいた

ご意見をもとに本刷まで修正できるところは修正していただくということで進めさせていただきます。全体を通してリーフレットについて何かございますか。まず説明会用を使用し、なおかつバージョン1という形になりますがホームページ上にはこれが掲載されることになろうかと思えます。よろしいですか。

それでは、本日予定しておりました協議事項は全て終了いたしました。これをもちまして白石町「町民協働によるまちづくり」リーフレットは完成ということにさせていただきます。今年度検討委員会の皆様には、ご多忙の中非常に多くのご意見をいただきました。このリーフレットの完成をもって今年度の検討委員会の一つの取りまとめ成果とさせていただきますと思います。来年度も検討委員会としては継続することになりますのでその際はご協力の方よろしくお願いいたします。それでは進行を事務局にお返します。

#### 4. 「協働による地域づくり」の方向性を町へ提示

##### ○事務局

委員長、委員の皆さんありがとうございました。先ほどの皆さんからのご意見をもってリーフレットの完成ということで進めさせていただきたいと思えます。先ほど委員長からもありましたように、今年度の検討委員会につきましては本日をもって終了とさせていただきますと思います。来年度以降については後だっただご説明致しますけれども、取組の進捗状況を皆さんに報告しながら、検証等をお願いすることも予定しておりますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは「協働による地域づくり」の方向性を町へ提示していただきます。現時点でのリーフレットを委員長から町長に手渡していただくことで「協働による地域づくり」の方向性をこの検討委員会から町へ示したということにさせていただきますと思います。五十嵐委員長、町長お願いいたします。

##### ○委員長

全部で7回にわたる委員会での熱心な審議を行いまして、「町民協働によるまちづくり」のリーフレットを取りまとめさせていただきました。今後の町政運営に活用されるように委員会を代表しまして町長にお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

##### ○町長

ありがとうございます。策定していただきました方向性で「町民協働によるまちづくり」を進めさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

##### ○事務局

ここで田島町長から委員の皆さんにお礼の言葉を申し上げます。

##### ○町長

皆さんこんばんは。皆様におかれましては、仕事お勤めの後に、委員会をしていただいたところでございますけれども本当にありがとうございます。また本日もお忙しい中

に白石町協働による地域づくり検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございました。皆様方には先ほど委員長からお話がありましたように昨年からの9ヶ月で7回という早いテンポ、ハードなスケジュールの中で協議をお願いしご協力いただいたことにまずもって厚くお礼申し上げたいと思います。おかげをもちまして、先ほど「町民協働のまちづくり」の方向性を示していただいたところでございます。人口減少、少子高齢化が進む傾向にある中に地域の力やコミュニティと協働することが必要と考えこの検討委員会での協議をお願いしたところでございます。今後はこの方向性に基きまして「町民協働によるまちづくり」を進めてまいりたいと思います。最後になりましたけれども委員長様をはじめ委員の皆様全員に感謝を申し上げお礼の言葉に代えさせていただきます。今年度の委員会は今日が最後だとお話がありましたが、来年度以降も引き続き皆様方にはご協力をお願いし、今後ともよろしくお願いいいたします。簡単ではございますけれどもお礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 5. その他

### (1) 平成31年度以降「町民協働によるまちづくり」事業計画（案）

#### ○事務局

それではその他に入りたいと思います。まずは事務局から平成31年度以降「町民協働によるまちづくり」事業計画（案）について説明させていただきます。

#### ○事務局

資料3をご覧ください。平成31年度以降「白石町町民協働によるまちづくり事業計画」の案です。まず区分ですが横列が年度を示しておりまして、縦の列を役場内部で取り組む部分、町民の皆さんや地域で行ってもらう部分と分けております。まず役場内の部分ですが、役場職員に対する協働研修会を31年度2回、32年度1回、33年度以降は1回ずつ行うように考えております。その下、地域の協働体制庁内検討委員会も同様に31年度2回、32年度1回、33年度1回程度ずつ実施することを考えております。協働による地域づくり検討委員会につきましては、平成31年度は3回開催を予定させていただいております。そして平成32年度以降は、第2期委員会となります。また、開催回数については実際モデル事業を始めてその地区次第ということもありますので開催回数自体は未定としていますが、ただ検討委員会は行っていきたいと考えております。そこの上のほうに、「提言」と書いておりますが、これは今日示していただいた方向性をもっと重くしたものと考えていただければ良いですが、これにつきましてはモデル事業の実施状況で31年度から33年度位までの間に提言が行えたら良いと考えております。協働による地域づくり説明会はワークショップ形式を想定しておりますが、平成31年度は平成32年度にモデル事業を実施要望される地区1地区で開催して、平成32年度は平成33年度のモデル事業実施要望地区で開催する予定で考えております。協働による地域づくりモデル事業ですが、平成31年度から33年度の3ヶ年で各

年度1地区ずつ選定することを予定しております。平成31年度のモデル事業は1地区ですが、この地区につきましては、平成30年度以内に選定する予定で考えております。平成31年度モデル事業で準備委員会をしてもらい、平成31年度末に協議会を設置、そして平成32年度から活動開始というイメージです。平成32年度、33年度も同様のイメージでモデル事業実施前の年度に選定いたしまして、モデル事業実施年度末に協議会を設立、そしてその翌年度から活動開始となるように考えております。なお、モデル事業の実施期間が終了した後も当然地域づくり協議会の設立は推進していくと考えております。地域づくり協議会設立準備委員会の先進地視察は毎年1回ずつ行う予定で考えております。説明については以上です。

#### ○事務局

今説明しました区分や年度については5月から新元号ということでございますけれども31、32、33年度という形で表現をさせていただいております。31年度以降について説明をいたしましたけれども皆さんのほうから質問等ございませんでしょうか。

#### ○委員

どの程度地区の希望があるか分かりませんが、例えば8校区ある中で1地区と限定してありますが、2地区になる可能性がある場合はどうするのですか。この1地区というのは職員の人数とかも関係があるのかも分かりませんが、その辺について回答をお願いします。

#### ○事務局

担当部局の体制のことも考えてではありますが、基本的に初めて行うことでありますので、31年度はまず1地区そこで集中的に行わせていただきたいと思っております。そこである程度のノウハウを取得し、32年度、33年度以降手を挙げていただくところが数地区ありましたらその時は検討させていただきたいと考えております。すみませんが31年度は1地区どこかにお願いしたいと考えております。

#### ○事務局

状況にもよると思いますが、基本1地区ずつでお願いしたいと思っております。それについてはモデル事業を行う際、その地区でワークショップがある時は必ず職員が出ることになり、非常にタイトになりますので、基本1地区でモデル事業を行い、協議会設立とそういう流れでお願いしたいと思っております。当然数地区から要望があれば、要望があった地区で話をするような形で1地区に絞らせていただきたいと考えております。他に何か皆さんからありますか。

#### ○委員

設立単位が小学校区単位となっておりますが、1校区に10地区以上あるところもありますが、それがまとまらないといけないということですね。1つでもうちの地区は入らなくて良いということがあればどうしますか。



### ○事務局

基本は小学校区単位での地域づくり協議会となります。

### ○委員長

確かに理想はすべての行政区が小学校区で行うのが理想ですが、この準備委員会の段階ではすべて足並みが揃っている必要はないと思います。準備委員会で色々検討しながら巻き込んでいくという考え方もあるかと思います。個人的な意見ですが、その場合は柔軟にしたほうが良いと思います。

それから、この準備委員会を作る時にワークショップを行うのですが、ファシリテーターをお願いするのですね。

### ○事務局

準備委員会のワークショップも全てファシリテーターを入れるように考えております。

### ○委員長

具体的にいうとコンサルに委託するのかファシリテーター1名を依頼するのか、どういった形かということです。

### ○事務局

他市に確認したところファシリテーター1名ということで行われていますのでそちらを参考にしたいと思います。

### ○委員長

この計画は31年度に提言と書いてありますが、分かりにくいと思います。今回のリーフレットはあくまでも協働のまちづくりを進める上での方向性に過ぎないわけです。実際はこれを実行するとすると色々な課題があります。例えば、まちづくり協議会を運営するお金はどうするのか、あるいは役員をどうするのかとか、実際動き出すと解決していかないといけない問題がたくさんあります。そういったことを踏まえた上で再度この検討委員会で課題を洗い出して内容深めた上で提言書としてまとめていくという手続きになるかと思います。したがって次年度以降この検討委員会は現場と往復しながら色々改善を図っていくというイメージだと分かりやすいと思います。

### ○事務局

ありがとうございます。事務局の方からは以上ですが、委員の皆様から何かございましたらお願いしたいと思います。

他になれば、長期間の検討委員会、皆様のご協力いただきましたことをあらためて御礼申し上げ本日の検討委員会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。